

eastspring
investments

A Prudential plc (UK) company



イーストスプリング インド投資マンスリー

2022年8月号

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号

加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。

最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

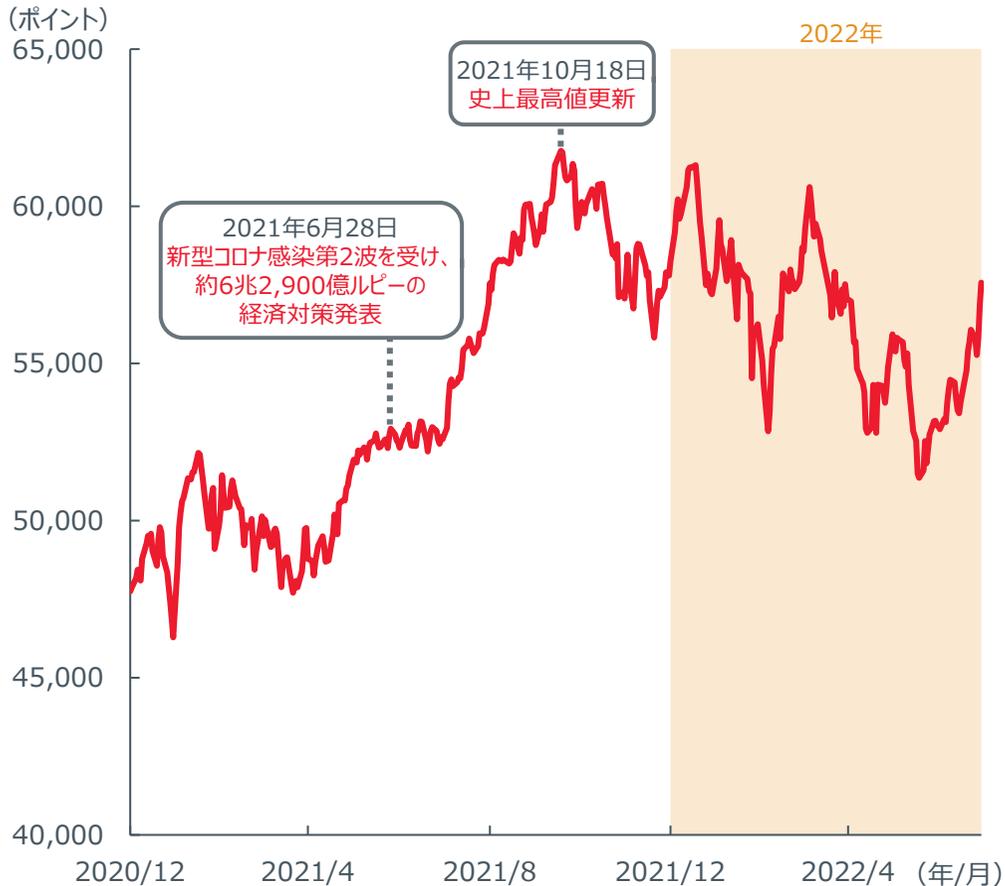
この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

インド投資マンスリー
動画配信中！



株式：堅調な企業業績などを背景に上昇

SENSEX指数の推移 (2020年12月末～2022年7月末、日次)



2022年7月の振り返り

インド株式（SENSEX指数）は8.6%上昇し、エマージング株式（MSCIエマージング）を大幅に上回るパフォーマンスとなりました。堅調な企業収益とインフレがピークアウトしたのではないかとの見方が好感されました。中型株と小型株は大型株を上回る上昇となりました。

セクター別では、エネルギーが下落した一方、素材、資本財、金融、生活必需品などが市場全体を上回る上昇となりました。

売買動向では、海外機関投資家は6月まで9か月連続の売り越しとなっていたましたが、7月は小幅ながら買い越しに転じました。国内機関投資家は7月も買い越し、17か月連続での買い越し基調を維持しました。

7月の製造業PMIは56.4と、6月の53.9から上昇し、8か月ぶりの高水準となりました。好不況の分かれ目となる50を13か月連続で上回っています。

規模別指数の期間別騰落率 (2022年7月末時点)

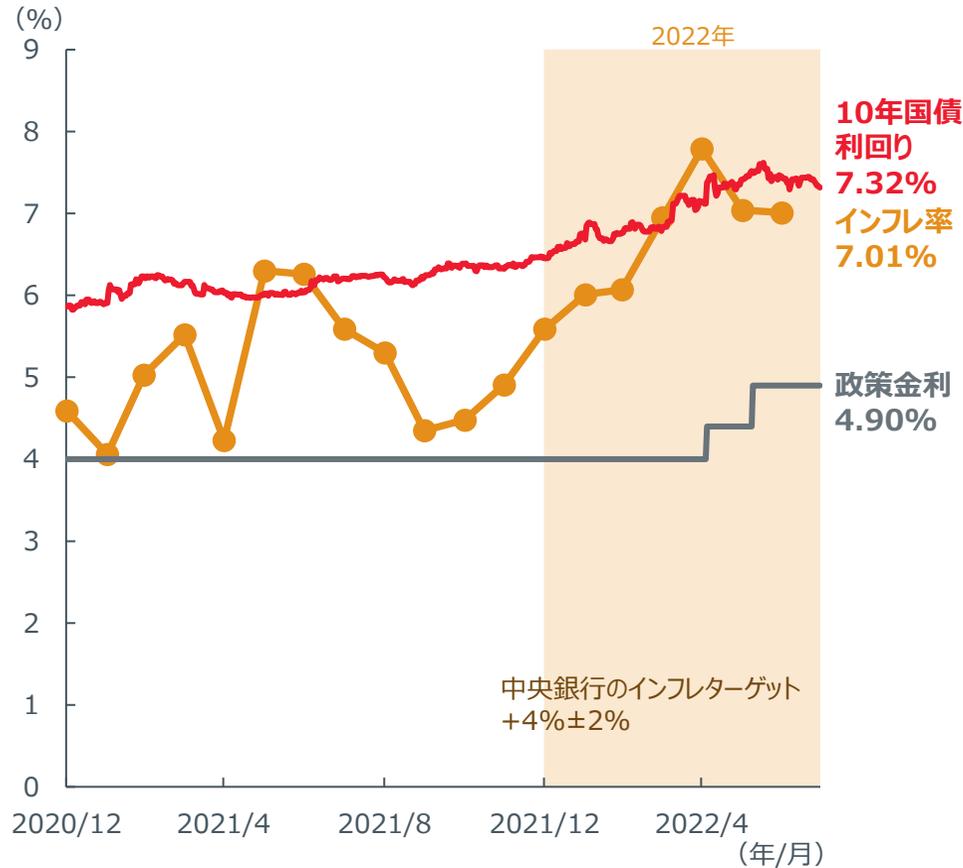
	1か月間	3か月間	6か月間
大型株 (SENSEX指数)	8.6%	0.9%	-0.8%
中型株 (BSE中型株指数)	10.8%	-1.5%	-2.3%
小型株 (BSE小型株指数)	9.2%	-5.4%	-7.4%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※全てプライス・リターン、インドルピーベース。

債券：インフレ率、利回りともに低下

政策金利*、インフレ率**、10年国債利回りの推移

(2020年12月末～2022年7月末、日次)



2022年7月の振り返り

10年国債利回りは、世界的な金融引き締めが経済成長を鈍化させるという懸念が強まったことなどから低下（価格は上昇）しました。

12日発表の6月の消費者物価指数（インフレ率）は前年同月比で7.01%の上昇となり、インド準備銀行（RBI、中央銀行）の目標を6カ月連続で上回ったものの、事前の予想通り前月からは低下しました。

月後半には短期債の利回りが大幅に上昇し、10年債利回りとの利回り差が縮小しました。資金需要の増加、RBIによる為替介入、政府預金残高の季節要因による上昇など、過剰流動性の低下が主な要因です。

債券利回りと利回り差の変化幅

	2022年7月末	2022年6月末	変化幅
10年国債利回り	7.32%	7.45%	-0.13%
10年社債利回り***	7.67%	7.81%	-0.14%
利回り差	0.35%	0.36%	-0.01%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

*レボ金利、**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。新基準（2012年=100）による統計を使用。2022年6月まで。

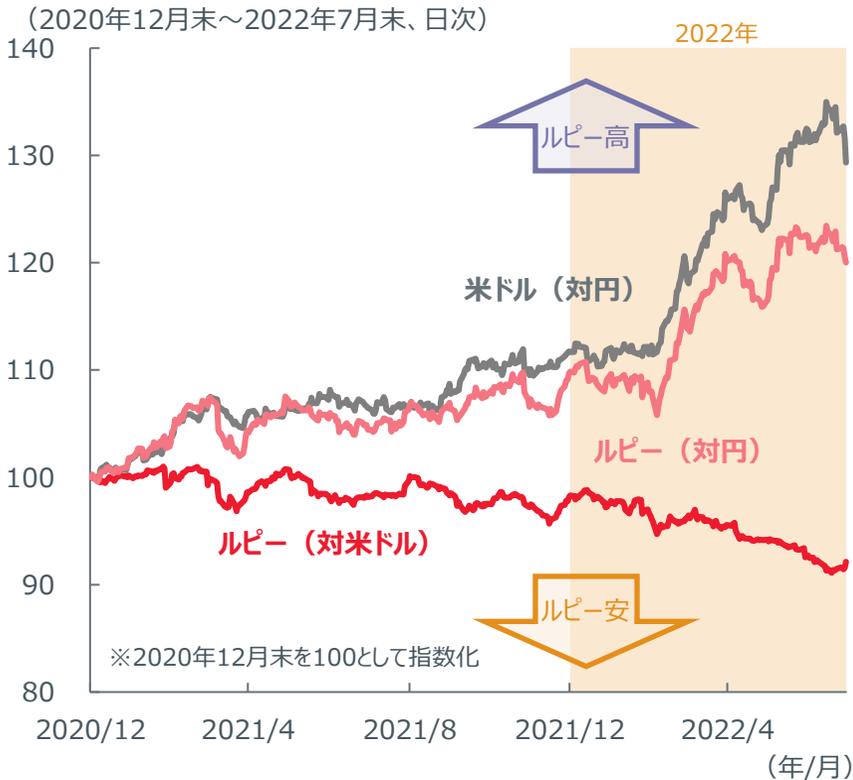
***10年社債利回りはBloomberg FIMMDA India Corporate Bond Curve AAA Year Corporateの利回りを使用。

利回り差等については四捨五入の関係で数値間で整合しない場合があります。

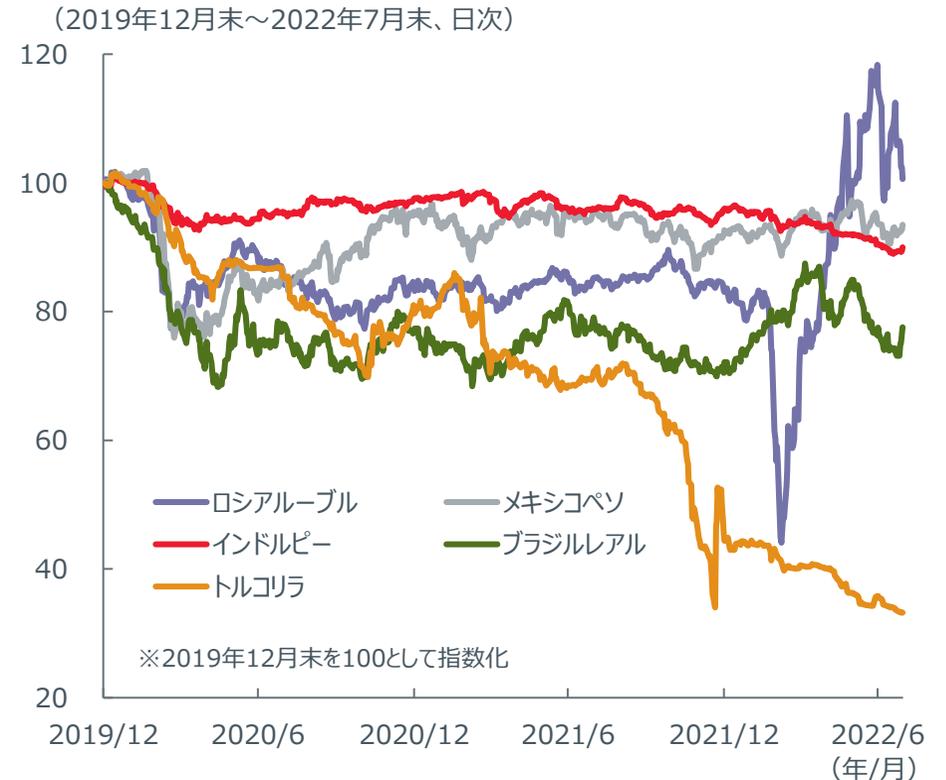
為替：ルピーは対米ドル、対円ともに下落

- 7月のルピーは、対米ドルで0.6%、対円で2.6%の下落となりました。また対米ドルでは過去1年で6.1%下落しており、過去最安値水準で推移しています。
- 一方で、2020年以降のルピーの動きをみると、他の新興国通貨に比べて対米ドルで相対的に安定した推移となっています。

ルピー（対米ドル、対円）の推移



主要新興国通貨（対米ドル）の推移

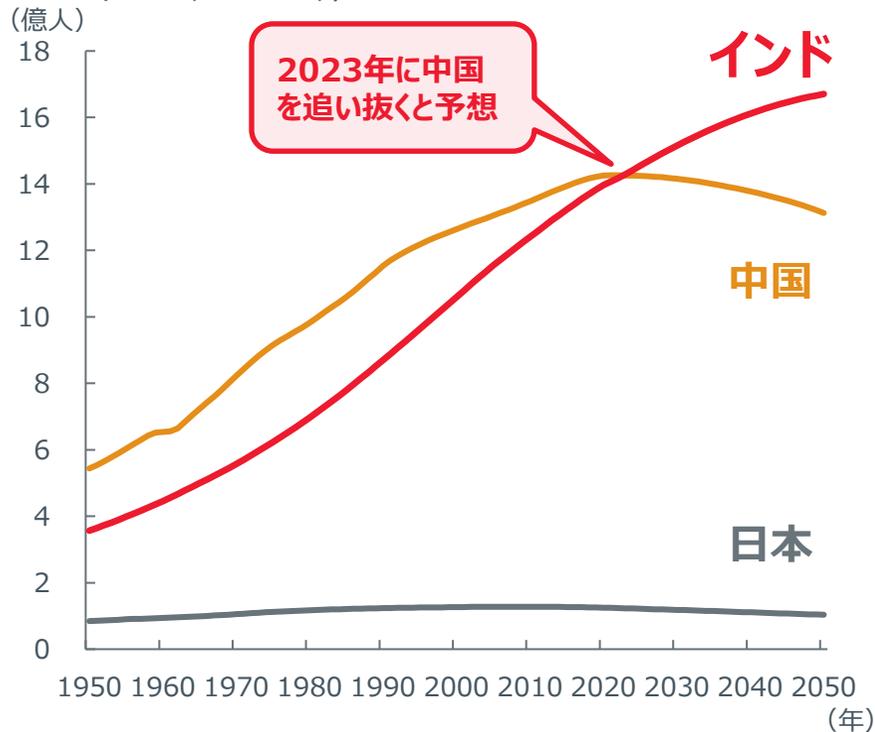


出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

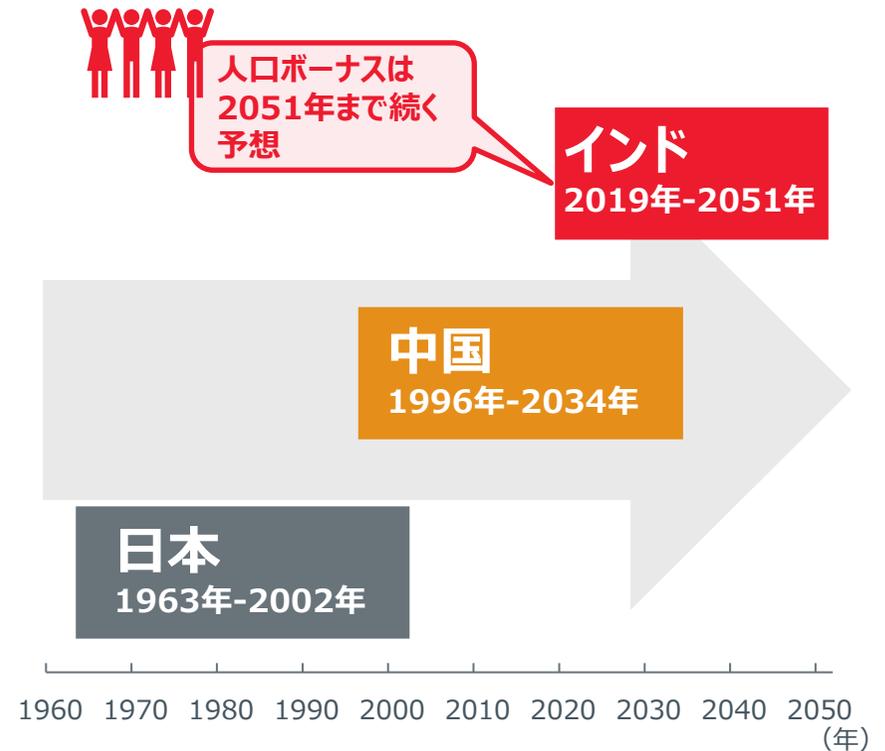
2023年には中国を抜き世界一の人口大国へ

- 国連は7月、世界の人口が今年11月には80億人に達し、更に2023年にはインドが中国の人口を上回り、世界一の人口大国になるとの予測を発表しました。
- また、インドの人口ボーナス期*は2051年まで続く予想され、今後も長期にわたって豊富な労働力が経済成長を支えていくことが期待されます。

インド・中国・日本の人口の推移
(1950年～2050年)



インド・中国・日本の人口ボーナス期*



出所：国際連合「World Population Prospects 2022」のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。2022年以降は予測。

*人口ボーナス期とは、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）がその他の人口の2倍以上にある期間のことを指します。

高速通信規格5Gのオークションを実施、5Gサービス開始へ

- インド政府は同国初の高速通信規格5Gの導入に向けた準備を進めており、7月26日から7日間にわたり5Gで使う周波数のオークション（入札）が実施されました。合計約72,000MHz幅の帯域の携帯電話用周波数割り当てオークションで、一度に売却される周波数数量としては過去最大でした。

オークションによる落札総額は1.5兆ルピー超え

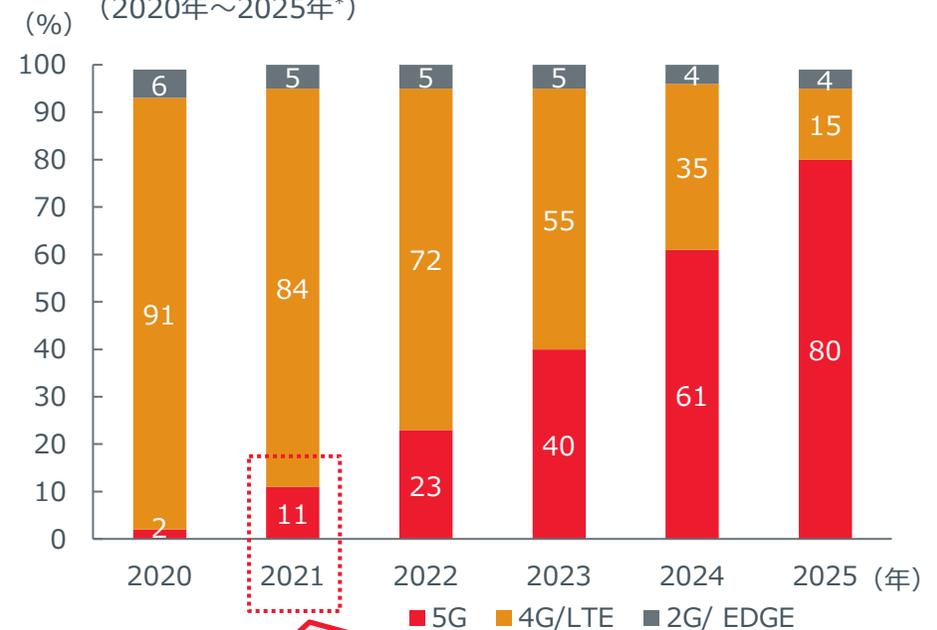
- 今回行われた5Gオークションは、通信大手3社（リライアンス・ジオ、バルティ・エアテル、ボーダフォン・アイデア）を含む4社によるもので、落札総額は1.5兆ルピーを超えました。落札者への周波数割り当ては数日中に行われ、5Gサービスは10月までに開始される見込みとなっています。

5Gスマートフォンの普及が期待

- 2021年のスマートフォン総出荷台数のうち、5Gに対応するのは約11%に過ぎず、中国（約75%）、韓国、日本、英国（それぞれ60%以下）、米国（約50%）などに後れを取っています。今後、5Gサービスが開始されることで、インドは2～3年で他国との差を縮小し、急速な発展を遂げると予測されています。

5Gの普及は、IoT（モノのインターネット）、スマート工場、遠隔手術、没入型バーチャルリアリティ、自動運転技術などの次世代テクノロジーの進化と活用をもたらす、インドにとって新しい時代の到来を告げるものとなりそうです。

インドの通信方式別スマートフォンの出荷台数割合
(2020年～2025年*)



2021年の5G対応スマートフォンは約11%、
2025年に向けて急拡大が見込まれる

出所：ICICIAMのデータ、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。*2022年以降は予測値。四捨五入の関係で数値間で整合しない場合があります。

当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。
- 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

※ MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

※ 業種区分は、原則としてMSCI/S&P GICSに準じています。GICSに関する知的財産権は、MSCI Inc.およびS&Pにあります。